

日立労働基準監督署長が建設工事現場の 安全パトロールを実施！ ～ 第 94 回全国安全週間 ～

令和3年7月2日



現場の担当者から説明を聞く尾畑署長(左)
令和3年7月1日撮影



現場の安全確認を行う尾畑署長(中央)
令和3年7月2日撮影

今年で94回目となる全国安全週間（令和3年7月1日～7日）に合わせて、日立労働基準監督署（署長 尾畑宏忠）は、令和3年7月1日、2日の2日間にわたり管内の建設工事現場の安全パトロールを実施しました。

茨城県内の労働災害は令和3年5月末現在で1,177人と前年同期と比較して233人増加しています。また、労働災害による死亡者数は令和3年7月1日現在で11人と、前年同期の1.6倍となっており、特に建設業においては5人の方が亡くなっています。このうち、日立労働基準監督署管内においては、本年5月に高所からの墜落による死亡災害が発生しています。



現場担当者に安全訓話を行う尾畑署長(正面左)
令和3年7月2日撮影

安全パトロールには日立労働基準監督署から尾畑署長のほか安全担当者2人が参加し、現場の担当者から災害防止の取組状況について説明を聞きながら、建設現場での発生が多い「墜落・転落災害」や「はさまれ・巻き込まれ災害」の安全対策が適切に行われているかなどを確認しました。

尾畑署長は安全訓話の中で、過去の災害事例を示しながら高所からの墜落防止対策や重機との接触防止対策などを中心に労働災害の防止を呼びかけました。